

整理番号	49-2	事務事業名	図書館読書サービス事業	作成部署	生涯学習部図書館	電話	373-7667	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	新谷良文	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H10	根拠法令等	図書館法、北広島市地域交流センター条例、同施行規則					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	平成10年北広島市図書館開設。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	社会教育	(第3節)
	施策	読書活動の充実	(第5施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市民及び図書館利用登録者	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	北広島市図書館資料充実プランに基づき、図書、記録、郷土資料、視聴覚資料その他必要な資料や情報を収集、整理、保存し、利用に供することにより、市民に情報と交流の場を提供し、豊かな地域社会の形成に寄与する。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	図書館・中央公民館図書室(H13まで)・団地住民センター図書室・西の里公民館図書室・大曲会館図書室・農民研修センター図書室・移動図書館車で、H16まで222,625冊を収集・整理・保存し、H10～H16までに3,038,922冊を貸出。
		17年度	経常資料として年間10,000冊の資料を受け入れ、500,000冊を貸出。また、新築移転する(仮称)大曲コミュニティセンター分館と西部小学校分室の基本資料として10,400冊を受け入れ、準備に当たる。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	25,236	23,939	58,452	25,000
	合計	25,236	23,939	58,452	25,000
人件費(概算)	人数(年間)	3.50	3.50	4.00	5.00
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	31,500	31,500	36,000	45,000
総事業費 +	56,736	55,439	94,452	70,000	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	市内利用登録者	21,346人	23,063人	26,400人	29,400人
	年間増加冊数	10,968冊	10,061冊	20,400冊	15,000冊
	貸出冊数	495,896冊	492,786冊	500,000冊	600,000冊
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	登録率(市内登録者÷人口)	36%	39%	44%	48%
	蔵書冊数	212,564冊	222,625冊	243,025冊	258,025冊
	人口一人あたり年間貸出冊数	8.32冊	8.18冊	8.33冊	9.84冊
	還元額(貸出冊数×資料平均単価(2,350円))	1,165,356千円	1,158,047千円	1,175,000千円	1,410,000千円
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	人口一人あたり蔵書数	3.56冊	3.69冊	4.01冊	4.23冊
	人口一人当たり年間増加冊数	0.15冊	0.16冊	0.34冊	0.25冊
	市民1人当たり還元額 (還元額÷人口)	19,721円	19,213円	19,421円	23,115円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	道内トップクラスの利用状況であり、市民ニーズは極めて高い。人口6万人規模の市として、各地区分室の資料充実が急務。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民の生涯学習の基礎を担う事業であり、資料充実は行政の責任において行うべき。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	利用率の高さなどから、市民の有効活用が十分に図られている。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	資料の受け入れ業務など、一部民間委託を取り入れ、効率的に行われている。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	図書館法17条に無料の原則あり。ただし、複写機の使用や電子情報の提供など、有料であることが相応しいサービスについては有料としている。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	利用登録者や冊数の推移を見ても、定着・微増の傾向を示しており、着実な成果が上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	資料の充実には資料費の安定化が重要であり、現状は計画的な収集が図られている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	現在、本館を中心に資料充実が図られているが、その有効性は十分に発揮されている。今後は、大曲・西部地区の学習拠点施設整備に合わせ、地区図書室における資料を充実し、各地区での生涯学習活動の一層の活性化を図る。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり